

XI. アジア諸国・パラグアイ
における感染症の比較

XI. アジア諸国・パラグアイ における感染症の比較

はじめに

感染症基礎調査は1980年から行われ、すでに7ヶ国の資料が収集された。途上国の感染症像は先進国とは著るしく異なり、また、国によっては数年間にかなりの変化が認められるので、時々その実状を比較検討することはわが国の医療協力方針策定に重要な意義があると考えられる。初期の調査資料は7～8年前のもので、必ずしも現状を反映しないので、最近入手した資料を加えて、各国感染症の比較を試みた。原虫による各種疾患および寄生虫症については、時間の制約もあり、後日まとめて記述する。

1 衛生状態概要

感染症基礎調査（以下「基礎調査」）の行われた諸国の保健衛生状態の概要を知る指標として、人口動態を表Ⅺ-1および表Ⅺ-2に示した。初期に調査したタイ、フィリピンについては古い資料も併記した。また、参考のためにインドの資料も加えた。タイでは、出生率、死亡率、人口増加率の減少が認められ、とくに乳児死亡率は5年間に半分以下に、母体死亡率は6.5%まで減少した。フィリピンでも乳児死亡率および母体死亡率の減少傾向が認められるが、出生率、人口増加率はあまり変わっていない。乳児死亡率を比較すると、バングラデシュ、ネパールは100を越え最も高く、インドおよびインドネシアがこれに続き、フィリピン、スリランカ、タイの順に低くなる。タイの乳児死亡率は先進国に近いが（日本：1982年6.6）、一方では1983年の死亡率45.3という情報もあるので、その判断は今後の調査に待ちたい。平均寿命はネパール、バングラデシュ、インドネシア、インドでは50才台で日本の1947年頃に相当する。他の諸国は60才で、スリランカは最も長い（男67才、女71才）。また、ネパール、インド、バングラデシュでは女性の寿命が男性より僅かではあるが短いことが、ほかの諸国と異なっている。多産、栄養不足と重労働などが原因であろう。表Ⅺ-1に国民所得を併記したが、スリランカを例外として（後述）、収入の低い地域の衛生状態が悪いといえよう。

2 各種疾患の罹患率，死亡率の比較

表Ⅺ-3には主要疾患の発生概況を示した。表には各疾患の発生比率と罹患率(カッコ内)を示したが、罹患率は情報組織の大小および精粗により著しく異なるので、各国の数値そのものを直接比較することはあまり意味がないと考えられる。また、疾患分類法は国により異なるが、原資料に従って記載した。また、情報源はほとんど病院統計であるが、インドネシアでは抽出標本調査(1980)の資料がよく引用されるので、これも併記した。病院統計中「妊娠分娩等」の大部分は正常分娩であるから、これを除外すると、感染症と呼吸系疾患(感染症を含む)、事故あるいは栄養失調などが各国の住民保健上の重要課題であることがわかる。なお、ネパールは他国にくらべて情報組織が未熟で報告を提出する地方あるいは病院はごく一部で、下痢症、結核、癩、マラリアの大部分は病院統計には収載されない(調査報告Ⅳ-1参照)。

表Ⅺ-4には各国の十大死因を示した。呼吸系疾患による死亡の大部分は肺炎であるが、原報告のまま収載した。ネパールの死亡率(カッコ内)は罹患率同様に実数を遙かに下まわることが付記しておく。インドネシアとネパールでは感染症が最大の死因となっている。ネパールでは下痢症による死亡が最も多いが、数字にして正確に把握されていない(Ⅳ-2)。インドネシアでは死因の35.6%が感染症で、17.7%が肺炎であるから、死因の過半数は感染症であることがわかる。これは1980年の標本抽出調査によるもので、破傷風による死亡が多い(6.52%)ように見られるが、病院統計(1980)でも全死亡の5.99%であった。ちなみに、病院統計では下痢症7.57%、腸チフス2.5%、腸炎1.58%、肝炎1.2%、ジフテリア0.79%と報告されている(その他病名記載ないものが80%)。そのほかの4ヶ国では循環系疾患(心疾患を含む)の比重が大きく、死因第1位となり、パラグアイ、フィリピン、スリランカでは全死因の20%以上を占めている。この3国では肺炎、感染症あるいは事故などがこれに続いている。しかし、タイ(1983)では、事故を3分して報告しているので、これを合わせると、全死因の98.3%に達し、死因第1位となり、循環系疾患(含脳血管疾患)が第2位(8.43%)となる。また1977年の統計では気道感染の死亡率が57.7で循環系疾患を上まわっていたが、1983年には逆転している。また、1977年には腸管感染症が第8位になっていたが、1983年には十大死因中に記載されていない。フィリピンでも1984年には下痢症による死亡が1977年より減少している。パングラデシュでは上記諸国と比較できるような死亡統計が入手できなかった。

以上を要約すると、インドネシアおよびネパールでは感染症が死因として最も重要であるが、スリランカ、タイでは循環系疾患や事故の方が重要になってきたといえる。先進諸国と異なり腫瘍(新生物)による死亡率はあまり高くないが、ネパール以外の各国では十大死因の4~6位に記載されている。

3 感染症の概要

上述のように、感染症は各国罹患の第1原因であり、かつ死因順位の上位を占め、国民保健上最も重要な疾患であるといえることができる。

表Ⅺ-5には感染症の発生状況を示した。ここには、資料の関係上人口10万当りの罹患率を示したが、上述のように国により情報収集量が非常に異なるから、各国間の比較よりも、国内における各疾患の発生頻度を知る参考として記載した。また通常報告のほかに特別なサーベイのデータも併記した(脚注参照)。これらの資料を参考にして感染症概況をまとめ表Ⅺ-6に示した。表Ⅺ-5によると、腸管感染症と気道感染症が非常に多い。後者には、感冒やインフルエンザなど全世界に共通の疾患が多いが、調査団が派遣された諸国に共通な特徴として、腸管感染症が最も重要な疾患であると考えられる。これに続いてマラリア、結核、麻疹あるいは類などが多い。また、破傷風罹患率は各国で6~8位であるが、致命率(次項)の高いことを考慮すると各国の重要疾患の1つと考えられる。その他の疾患としては、最近肝炎が各国で多発していることが注目される。また、インドネシア、ネパール、タイ、パラグアイ、スリランカでは脳炎が、インドネシア、タイ、フィリピン、スリランカではデング熱の発生が報告されている。脳炎は病原検査が行われないうちに神経性疾患のなかに分類されている例が多いから、よく調査するとともに多い疾患であると考えられる(第Ⅳ章参照)。髄膜炎はパラグアイとネパールから報告されている。ネパールでは1983年に始めて流行があり、多糖体ワクチンを用いたと報告されている(第Ⅳ章)。この疾患も神経系疾患として報告される例が少なくないと考えられる。

表Ⅺ-7に感染症の致命率を示した。この成績は各国のいくつかの資料から捨ったもので、一貫性に欠けるが、大体の傾向を知ることができよう。破傷風の致命率は非常に高く、とくに新生児破傷風では50~90%に達する。その他の疾患では脳炎の高い致命率が注目されるが、フィリピンだけ低い理由はわからない。ジフテリアの致命率も7~16%とかなり高い。結核による死亡もかなり多い。結核についてタイの2つの情報の差が著しい差があるが現在の資料からは説明できない。一般にフィリピン、インドネシア、ネパールにおける感染症致命率はスリランカやタイよりも高い。後述するように、スリランカでは医療体制が比較的良く整備され、早期診断が可能で初期治療が行き届いていることなども致命率の低い原因の1つであろう。

つぎに、感染症の年次推移については、1985年スリランカ基礎調査報告書に詳述したので割愛するが、末尾に最近の資料を追加した(表Ⅺ-11~23)。ネパールについては第Ⅳ章に述べた。マラリアはスリランカやネパールで一時著明に減少しあるいは終熄するかと思われたが、その後再発し、媒介蚊や原虫の薬剤耐性の出現により、制御困難な疾患となった(第Ⅴ章およびスリランカ基礎調査報告書参照)。結核はタイ、スリランカで減少傾向が認められるが、依然として主要疾患となっている。死亡率にはやや低下傾向が認められる。腸管感染症のうち下痢症は各地で猛威をふるい

罹患率はむしろ増加傾向が認められる。コレラ、赤痢および腸チフスも各地で流行している。しかし、これらの疾患による死亡率は次第に低下する傾向が認められる。これは経口輸液や抗生物質の効果による。

その他の疾患ではジフテリア、破傷風、百日咳など予防接種対象疾患が2-3の国で減少している。これについては次項に述べる

4 予防接種対象疾患

WHOはジフテリア、破傷風、百日咳、麻疹、灰白髄炎、結核制圧のために予防接種普及計画（EPI, Expanded Program on Immunization）を樹て、1976年頃より途上国にワクチンの供給などを行ってきた。諸国はWHOの勧奨を受けて予防接種普及に努めてきた。表XI-8には基礎調査を実施した諸国の接種率を示した。この接種率は各国で設定した目標に対する達成率で、該当者全員に対する接種率よりも少ない。例えばインドネシアの1982年の目標は全国の約60%で、ネパールの1986年目標は、DPT, BCG, POVで30%、麻疹についてはその半と推定される（N-2参照）。従って、目標の70~80%が達成されたとしてもジフテリアや百日咳の予防には著明な効果が認められないと考えられる。その他の国の目標設定方法については明らかでない。スリランカではEPI実施後に上記3疾患の著明な減少が認められた（図XI-1~4）。また灰白髄炎も減り始めたように見える。タイでは灰白髄炎、ジフテリアおよび破傷風の罹患率の減少傾向が認められるが、百日咳は減っていない。しかし、多くの国のサーベイランス体制の整備が遅れているので、接種率との関係については今後の観察が必要であろう。

EPI対象疾患は予防接種により確実に制圧できるが、単純にワクチンを供給すればよいという訳にはいかない。ワクチンの保存、輸送の問題、接種要員の確保、被接種者の指導（とくに途中脱落防止）、あるいは対象疾患の現状把握、効果判定方法などさまざまな問題を考慮しなければならない。また、ワクチンの品質管理についての関心は比較的薄いのが、予防接種の確実な効果という点に関連しゆるがせに出来ない問題であろう。

5 医療施設および環境衛生について

表XI-9に医療施設および医療従事者の現状を示した。ネパールおよびバングラデシュは医師看護婦、病床などすべてが甚しく不足している。インドネシアも医師および看護婦少なく、フィリピンおよびマレーシアは最も恵まれている。パラグアイは医師にくらべて、看護婦が少ない。

スリランカでは医師数は少ないが、看護婦・保健婦が多く、病床も多い。表Ⅺ-1をみると、スリランカのGNPはあまり高くないにも拘らず、乳児死亡率や平均寿命にみるように、年取の多いフィリピンやインドネシアよりも衛生状態が良いと考えられる。その理由としてはつぎの条件が挙げられる（スリランカ報告書参照）。

- (1) プライマリヘルスケア（PHC）体制がよく整備され、妊婦や小児の保護が行き届いている。また、一般疾患の早期発見および早期治療が可能である。
- (2) 医療はすべて無料で、ほとんどの住民の居住地の5哩以内に医療施設がある。
- (3) 普通教育が普及しているので、衛生教育を行い易い。
- (4) 交通網の発達がPHC活動および患者の通院を助けている。

医療施設はほかの途上国に比較して、決して豪華なものではなく、人も医薬品も不足勝ちであるが、当局は国民保健の実態をよく把握して、PHC体制の整備運営に努力した。ネパールはこの逆で、近代医療の恩恵を受けられる人はごく一部に限られ、国民の大多数が生活する地方では、10哩以内に医療施設の無いところも少なくない。また、山岳、丘陵が多く交通も不便なことが条件を一層悪くしている。そのうえ、文盲率が80%で、伝統的因習に固執し、衛生教育を実施しにくい。さらに、人員不足および医薬品の予算不足が著しく、PHCが計画通り実施されない。

つぎに、上述のように腸管感染症が蔓延している理由として、環境衛生状態が悪いこと、衛生に関する国民の無関心が挙げられる。表Ⅺ-10に各国の給水および尿尿処理の現状を示した。いわゆる“安全な水”の供給率は50%以下で、ネパール、インドネシア、バングラデシュは非常に悪い、またネパール、バングラデシュでは尿尿処理施設は5%以下という状態で、河川、池、など水源汚染の原因となっている。また、水道施設のある地域でも水質管理が不十分で、大都会でも水道水をそのまま飲むのは危険である。ネパール、スリランカの調査のさいに、保健省当局者は飲料水と尿尿処理を重要課題として、外国の援助を期待していた。

また、感染症の罹患および予後に栄養状態が重要な影響を及ぼすことは周知の事実である。

ネパール、バングラデシュ、インドネシアなどで貧血、ビタミン欠乏症、ヨード欠乏症などが多い。これらの問題についてはもう少し資料を検討して、考察したい。

衛生教育については、国民の文盲率の高い国ほど実施困難である。また、非衛生的な日常生活についても家屋の構造や宗教的伝統などを考慮すると、その改善は非常に難しいと思われる。

これらの問題については、調査団が入手した資料は不十分であるので、ほかの資料を求めて、後日比較検討したい。

6 ま と め

以上述べたように、感染症は基礎調査実施諸国において現在でも最も重要な疾患である。そのなかでも腸管感染症は各国で最も多いが、その原因としては環境衛生施設とくに給水、屎尿処理の不備と国民の非衛生的生活習慣あるいは衛生に関する無関心などが挙げられる。つぎに、マラリア、結核および癩が蔓延し、各国で特別対策を計画し、実施している。マラリアについては、媒介蚊および病原原虫の薬剤耐性が増加し、制圧困難な疾患となった。結核と癩については、実態把握が不十分であること、および長期に亘る治療期間中の脱落者の処理が問題である。

また、予防可能な麻疹、灰白髄炎、ジフテリア、破傷風、百日咳などがかなり多く発生しているが、予防接種率が低いので、スリランカ以外では予防接種効果が現われていない。各疾患の実態を把握し、実情に適した施策が必要であろう。ワクチンはWHOやUNICEFから供給されているが、国によっては、その保管、輸送に問題がある。

また、EPI事業には接種担当者の訓練および被接種者の啓蒙などいろいろな問題が残されている。

一般に、感染症の実態把握が不十分で、そのうえ病気の診断はほとんど臨床的診断によるものが多く、試験室検査の裏付けが乏しいことが、今後考慮すべき課題であろう。

以上述べた諸課題は各国保健省もよく認識して、計画を樹てているが、それに必要な予算の過半数は外国の援助に依存しなければならない国が多い（ネパール、スリランカ、バングラデシュ）。

また、施設改善、医薬品の供給も重要であるが、人材の教育と施設医薬品等の適切な運用に改善すべき点も少なくない。国民所得の低いスリランカの衛生状態が、もっと豊かな国よりすぐれているという事実は、保健対策樹立あるいは国際協力により参考になると考えられる。

各疾患の詳細については、1984年および1985年のバングラデシュおよびスリランカの感染症基礎調査報告書および末尾に添付した参考資料を参照されたい。

表Ⅺ-1 アジア諸国・パラグアイ人口動態

	パングラデシュ (1982)	インド (1983)	インドネシア (1983)	ネパール (1984)	パラグアイ (1982)	フィリピン ¹⁾ (1977)(1983)	スリランカ (1981)	タイ (1978)(1983)
中央推計人口(千人)	92,616	73,225.6	15,943.4	16,268	(85)3,274	44,584	51,970	43,916
人口密度 / km ²	62.6	220	82	(81)102	7.4	140	173	98
都市人口(%)	10	24.7	24.1	(81)7	42.3	35.0	37.3	14.4
粗出生率(人口1,000対)	35.8	34	33.7	41.6	36.0	30.0	28.9	26.3
粗死亡率(人口1,000対)	14.2	13	11.7	16.6	7.2	7.8	6.3	5.1
人口増加率%	2.2	1.8	1.8	(81)2.7	2.0	2.7	2.8	2.4
乳児死亡率(出生1,000対)	121.9	93.0	90.3	112	51.2	57.0	42.7	25.7
母体死亡率(出生1,000対)		34		8.5	2.9	1.4	1.0	0.8
平均寿命('81)	M:55.3 F:54.4	M:56 F:54	M:52 F:55	M:52.9 F:50.1	65.1 (1980-85)	M:56.9 F:59.9	M:67.0 F:71.0	M:57.6 F:63.6
定期国勢調査人口	90,625,000 (1981)	680,400,000 (1980)	146,776,473 (1980)	15,022,839 (1981)	3,026,165 (1982)	48,098,460 (1980)	14,850,000 (1981)	44,824,540 (1980)
GNP/Person(1982) ²⁾	130	250	420	(1983)170	1,410	(1983)820	284	800
成人識字率(1981)%	29	36	73	20	80	(1984)87		89

1) ※1975年

2) 各国感染症基礎調査報告およびSri Lanka Socio-economic Data, 1984による。

表 XI-2 アジア諸国の出生・死亡率および乳児死亡率(年次別)

		1970	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983 ³⁾
Bangladesh	B ¹⁾				39.7					35.2	35.0
	D				16.5					14.2	12.3
Indonesia	B	43.8	40.2					36.2		33.7	33.6
	D	18.7	16.7	14.3	13.9	13.5	13.1	12.5	12.2	12.3	11.7
Japan	B	18.8	17.1	16.3	15.5	15.0	14.3	13.7	13.1	12.8	12.7
	D	6.9	6.3	6.3	6.1	6.1	6.0	6.2	6.2	6.0	6.2
Nepal	B								42.0		41.6
	D								19.0	('85)	16.6
Philippines	B	26.4	28.3	30.3	30.3	30.5	30.3	30.3	29.5	29.1	28.9
	D	6.4	6.4	6.9	7.0	6.5	6.6	6.2	6.1	6.1	6.3
Sri Lanka	B	29.4	27.7	27.8	27.9	28.4	28.9	28.4	28.0	26.8	26.2
	D	7.5	8.5	7.8	7.4	6.6	6.5	6.2	6.0	6.1	6.1
Thailand	B	31.5	27.1	27.2	24.6	23.1	23.3	23.2	22.4	22.2	21.3
	D	6.2	5.6	5.5	5.4	5.4	5.2	5.3	5.0	5.1	5.1
(Infant Mortality) ²⁾											
Bangladesh			15.3	11.03	11.42			9.74	10.95	12.19	12.8
Indonesia	13.7 (mean of 1961~1971)		11.0					9.0			9.3
Japan		10.8	10.0	9.3	8.9	8.4	7.9	7.5	7.1	6.6	6.2
Nepal									15.20	('85)	11.15
Philippines		58.7	53.3	56.9	56.8	53.1	50.2	45.1	44.1	41.8	42.7
Sri Lanka	47.5 (140 in 1945)		45.1	43.7	42.4	37.1	37.7	34.4			33.4
Thailand		26.1	26.0	25.5	16.2	16.6	14.2	13.3	12.5	12.4	12.4

1) B: Crude birth rate per 1,000 population; D: Crude death rate per 1,000 population

2) Infant Mortality per 1,000 live birth

3) ※ 1984

表Ⅻ - 3 主要疾患発生状況¹⁾

	バングラデシュ 1982	インドネシア 1980(a)	インドネシア 1980(b) ²⁾	ネパール 1983	パラグアイ 1984	フィリピン 1984	スリランカ 1983	タイ 1983(a)	インド 1983(b) ³⁾
1	下痢症 (4170)	正常分娩 225	上気道感染 273(3130)	妊娠分娩等 39.0(181)	呼吸系疾患 26.6(1633)	気管支炎 (1,040)	妊娠分娩等 20.1(3138)	感染症 18.3(949)	呼吸系疾患 21.4(110.5)
2	感冒・呼吸系 疾患 (3110)	腸管感染 18.8	下気道感染 7.47(858)	感染症 12.0(55.7)	貧血 16.7(1024)	下痢症 (983)	感染症 16.3(2546)	妊娠分娩等 17.3(898)	消化系疾患 12.8(66.4)
3	腸管寄生虫症 (2710)	損傷・中毒 14.1	皮膚疾患 7.27(835)	損傷・中毒 8.97(41.6)	腸管感染症 15.4(945)	インフルエンザ (783)	呼吸系疾患 15.1(2359)	事故・中毒 11.3(588)	感染症 10.9(56.5)
4	栄養失調・貧 血 (2280)	妊娠分娩等 4.7	下痢症 6.80(781)	呼吸系疾患 6.85(31.8)	損傷・中毒 11.0(677)	肺炎 (338)	事故・中毒 10.8(1688)	呼吸系疾患 5.76(300)	事故・中毒 7.83(40.5)
5	疥癬・皮膚癩 疹 (2250)	流産 4.3	結核 5.26(604)	泌尿生殖系 疾患 5.15(23.9)	蠕虫症 10.6(652)	結核 (268)	消化系疾患 4.54(710)	消化系疾患 5.16(268)	皮膚皮下組 織疾患 5.62(29.1)
6	夜盲症・眼乾 燥症 (650)	循環系疾患 3.8	循環系疾患 5.15(591)	消化系疾患 4.89(22.7)	真菌症 6.4(392)	マラリア (207)	循環系疾患 4.38(685)	循環系疾患 2.29(119)	神経系疾患 3.87(20.0)
7	マラリア (440)	結核 3.3	眼感染 3.24(372)	循環系疾患 2.31(10.7)	栄養失調症 6.3(384)	事故 (157)	泌尿生殖系 疾患 4.34(678)	精神障害 1.82(94.5)	泌尿生殖系 疾患 3.69(19.1)
8	麻疹 (160)	呼吸系疾患 2.7	筋骨格系疾患 3.17(365)	神経系疾患 2.23(10.3)	循環系疾患 4.2(25.9)	麻疹 (127)	皮膚皮下組織 疾患 3.75(586)	皮膚皮下組織 疾患 1.47(762)	筋骨格系疾 患 3.63(18.8)
9	甲状腺腫 (70)	マラリア 2.7	関節炎・リュ ウマチ 2.30(265)	皮膚・皮下組 織疾患 1.36(6.31)	流産 1.1(65.2)	悪性新生物 (506)	筋骨格系疾患 2.99(467)	新生物 1.14(59.1)	精神障害 3.01(15.6)
10	破傷風 (60)	泌尿系疾患 2.5	口腔疾患 2.10(242)	血液・造血管 疾患 1.17(5.40)	性病 0.7(41.5)	伝染性肝炎 (283)	神経系疾患 2.71(424)	周産期病態 1.07(55.5)	内分泌栄養 障害等 2.44(12.6)
11	灰白髄炎 (40)		その他感染症 1.92(221)	新生物 0.79(3.67)	結核 0.7(40.3)		血液造血管 疾患 2.03(318)	内分泌栄養 障害等 1.05(54.8)	循環系疾患 2.43(12.5)
12	額 (20)		神経系疾患 1.82(210)	内分泌栄養 障害等 0.79(3.65)	悪性新生物 0.3(20.6)		内分泌・栄養 障害等 1.41(221)	泌尿系疾患 0.92(47.8)	妊娠分娩等 1.96(10.2)
備考				症状徴候等 13.5%(62.7)			症状徴候等 8.6%(1341)	症状徴候等 及その他疾患 31%(1610)	症状徴候等 18.7%(96.5)

1 疾患名の下に数字は全疾患患者に対する比率(%)、カッコ内は人口10万対罹患率、但タイ(b)は人口1,000人対罹患率

2 インドネシア(a):入院患者統計;(b)House Hold Survey (1980)

3 タイ(a):病院入院患者統計;(b)同外来患者統計

4 述語の説明:ICD9分類大系中の述語を用いるときはつぎの略語を用いた

妊娠分娩等:妊娠分娩および産じよく合併症(ICD9-630-676)

損傷・中毒:損傷および中毒(800-999);感染症:寄生虫症を含む。

内分泌栄養障害等:内分泌、栄養および代謝ならびに免疫障害(240-279)

症状徴候等:症状徴候および診断名不明確の状態(780-799)

神経系疾患:神経系および感覚器疾患

資料:バングラデシュ、インドネシア、ネパール、パラグアイ、スリランカについてはそれぞれの感染症基礎調査報告。スリランカ、ネパールは病院統計;タイ:Public Health Statistics 1983;フィリピン:Philippine Statistical Year Book 1986

表 XI - 4 十大死因¹⁾

国名 順位	インドネシア ²⁾ (1980)	ネパール (1983)	パラグアイ (1984)	フィリピン (1977) (1984)		スリランカ (1983)	タイ ³⁾ (1977)	タイ ³⁾ (1983)
1	肺炎 17.7(131.9)	感染症 21.3(3.11)	循環系疾患 22.4	肺炎 (105.1)	肺炎 19(89.3)	循環系疾患 21.7(37.8)	上気道疾患 (39.3)	肺循環・心疾患 6.11(31.2)
2	下痢症 17.4(130.3)	呼吸系疾患 10.8(1.58)	呼吸系疾患 18.6	結核 (70.7)	心疾患 12.9(61.0)	損傷・中毒 14.4(25.1)	消化系疾患 (25.5)	消化系疾患 4.38(22.4)
3	循環系疾患 9.38(70.0)	損傷・中毒 ⁴⁾ 10.7(1.57)	下痢症 15.8	心疾患 (62.2)	結核 11.2(52.9)	感染症 14.2(24.6)	他殺等 (19.6)	その他の事故 3.98(20.4)
4	結核 8.39(62.6)	循環系疾患 8.72(1.27)	新生物 13.6	胃腸炎・大腸炎 (40.1)	循環系疾患 8.4(39.6)	呼吸系疾患 11.6(20.2)	呼吸系疾患 (18.4)	呼吸系疾患 3.53(18.0)
5	破傷風 6.52(48.7)	妊娠分娩等 ⁴⁾ 8.27(1.21)	事故等 11.9	循環系疾患 (35.0)	悪性新生物 6.4(30.2)	周産期病態 8.9(15.5)	その他事故 (18.3)	他殺等 3.25(16.6)
6	神経系疾患 4.97(37.1)	神経系疾患 6.36(0.93)	周産期病態 9.2	悪性新生物 (31.1)	下痢症 5.9(27.8)	消化系疾患 5.2(9.0)	結核 (16.2)	悪性新生物 2.61(13.3)
7	肝疾患 4.09(30.5)	消化系疾患 5.97(0.89)	結核 2.8	事故 (25.2)	事故 3.6(16.8)	新生物 4.4(7.7)	肺循環・心疾患 (15.2)	交通事故 2.60(13.3)
8	事故・中毒等 3.53(26.4)	泌尿生殖系疾患 3.66(0.53)	妊娠分娩等 ⁴⁾ 2.4	栄養失調症 (22.3)	栄養失調症 2.9(13.4)	神経系疾患 4.1(7.2)	腸管感染 (14.9)	脳血管疾患 2.32(11.8)
9	新生物 3.42(25.5)	内分泌障害等 ⁴⁾ 2.70(0.39)	EPI 対象疾患 ⁴⁾ 1.9	気管支炎 (14.1)	麻疹 2.1(9.8)	内分泌障害等 2.4(4.1)	交通事故 (14.7)	結核 2.18(11.2)
10	腸熱 3.30(24.7)	血液造血器疾患 2.4(0.35)	栄養失調症 1.4	麻疹 (11.8)	腎炎・ネフローゼ 1.8(8.5)	泌尿系疾患 2.1(3.6)	神経系疾患 (11.0)	神経系疾患 2.18(11.2)
備考	肺炎外感 染症計: 3.561%	Teku 伝染病 病院資料含ま ず。 症状徴候等: 1.58% 死亡率 2.3	呼吸系疾患を 除く感染症計: 2.05%		肺炎外感 症計: 19.2 %	病状徴候等: 6.9% 死亡率 1.2		結核外感染症計: 5.22%死亡率 2.942; 症状徴 候等 ³⁾ 50.74% 死亡率 2.591
参考	日本(1983)感染症による死亡: 1.57%, 死亡率 9.8内結核 0.72%, 死亡率 4.5							

- 1) 疾患名の下に数字は全死因に対する比率%, カッコ内は人口10万対死亡率
- 2) 1980年標本抽出調査による。病院統計については本文参照。
- 3) Public Health Statistics 1983の順位による。消化系疾患には口腔疾患を含まない。「その他の事故」はICD9分類E900-929に相当する。
- 4) 資料および略語の説明: 表XI-3脚注, フィリピン感染症基礎調査(1982), (タイ) Public Health Statistics 1977-1981および1983
EPI 対象疾患: 予防接種で防げる疾患(結核を除く)ジフテリア, 破傷風, 百日咳, 麻疹, 灰白髄炎

表Ⅺ-5 主要感染症発生状況¹⁾

	バングラデシュ (1984)	インドネシア ³⁾ (1981)	ネパール (1983)	パラグアイ (1984)	フィリピン (1983)	スリランカ (1982)	タイ (1983)
コレラ		15.2 (1984:31.9SEAM)	0.95		2.05	1.8	3.34
胃腸炎・下痢症	4,170	1,220	>66	936.7	1,064.6	1,186	940.8
赤痢			8.69		(1981)70.4	6.8	144.7
食中毒					(1981)14.8	15.3	78.1
腸熱		6.79※ (1984:12.9SEAM)	7.30		2.73	4.13	3.32
肝炎		4.84	5.37	17.2	3.14	46.2	25.3
灰白髄炎	40	0.06※		0.06	1.54	0.74	0.32
ジフテリア	0.2~1.2	0.60※	0.20	0.31	6.23	0.15	2.32
百日咳	21	0.13※	0.03	1.99	4.13	2.0	10.8
破傷風	60	2.26※	3.44	5.07	6.43	4.0	3.71
麻疹	320	0.39※	3.32	2.63	13.99	87.4	97.5
結核	160	19.4§ (1983SEAM)	13.3 ⁴⁾	40.7	296.4	74.7	39.7 (130)キ
インフルエンザ				913.8	866.2	417.2	132.9
肺炎・気管支炎	3,110	多発	多発	Br656.9 Pn 62.4	Br1,149.7 Pn 373.4	859	(Pn)145.4
髄膜炎			4.05	11.8			
類	19 ²⁾	102	21.5 ⁴⁾	4.79	3.8 (70)キ	1.9 (69)キ	1.3 (90)キ
狂犬病		0.04 (1983SEAM)	+	0.19	0.6 (1981)	0.9	0.53
デング熱		3.48			5.29	0.17	67.0
脳炎		0.41※	4.61 (1985)	3.3		0.28	4.65
マラリア	440	564 (1983SEAM)	260 (1985)	17.2	229.3	290	235.2
性病		Syph 11.3 Gono 43.7		Syph29.8 Gono12.0	Syph0.15 Gono28.2	Syph 8.1 Gono26.5	7.44

資料：表Ⅺ-4脚注参照

1) 人口10万対罹患率

2) 実際はこの10倍ぐらいと推定されている。

3) ※病院統計、百日咳と麻疹は過少評価される。その他は保健省Surveyによる。但し1983年、1984年統計はSEAMIC Health Statisticsによる。

§ 1980 House Hold Surveyでは604/10万と推定。

4) ネパール結核有病率：開放性結核だけで0.25~0.5%(有病率1%)と推定。類：登録患者；有病率0.67%と推定。

5) キ特別サーベイによる有病率を示す。

表 XI - 6 主要感染症一覽表

順位	バングラデシュ	インドネシア	ネパール	パラグアイ	フィリピン	スリランカ	タイ
1	胃腸炎・下痢症 4,170	腸管感染症 1,227	腸管感染症 >66	下痢症 937	腸管感染症 1,313	腸管感染症 1,312	腸管感染症 1,200
2	マラリア 440	結核 604	結核 (有病率1%)	結核 41	結核 296	マラリア 290	マラリア 235
3	麻疹 320	マラリア 564	癩 (有病率0.67%)	麻疹 26	マラリア 229	麻疹 87	結核 130
4	結核 160	癩 102	マラリア 260	百日咳 20	麻疹 140	結核 75	麻疹 98
5	癩 >100	肝炎 4.5	肝炎 5.4	肝炎 17	癩 70	癩 69	癩 90
6	破傷風 60	デング熱 3.5	脳炎 4.6	マラリア 17	百日咳 41	肝炎 4.6	デング熱 67
7	灰白髄炎 40	破傷風 2.3	髄膜炎 4.1	髄膜炎 12	肝炎 31	破傷風 4.0	肝炎 25
8	百日咳 21	ジフテリア 0.6	破傷風 3.4	破傷風 5.1	破傷風 6.4	百日咳 2.0	百日咳 11
9		脳炎 0.4	麻疹 3.3	癩 4.8	ジフテリア 6.2	ジフテリア 2.0	脳炎 4.7
10		麻疹 0.4		脳炎 3.3	デング熱 5.3		破傷風 3.7

注：気道感染症を除外した。

資料：表 XI - 5

表 XI - 7 感染症致命率

	Bangladesh ¹⁾ (1981~83)	Indonesia (1981)	Philippines ²⁾ (1983)	Sri Lanka (1982)	Thailand ³⁾ (1983)a (1983)b		Nepal (1983)
Cholera		2.5	4.3	5.6	2.6	2.7	2.6
Acute Diarrhea	0.38~0.96	2.6	4.0	1.1	0.07	1.3	1.8
Dysentery			3.8※	1.4	0.03	0.03	3.2
Foodpoisoning			23.0※	1.1	0.04	0.03	r ⁵⁾
Enteric Fever		3.4	2.9	0.5		0.14	1.4
Hepatitis		3.4	4.4	1.1		0.57	12.2
Influenza			2.1	0.01			—
Pneumonia			26.5	5.2		0.56	r
Diphtheria	5~16.4	12.1	8.7	13.6	7.1	7.1	16.7
Whooping Cough	0.09	4.7	1.4	0.3	0.1	0.1	r
Tetanus ⁴⁾	9.7~18.8 (90.8)	19.1 (51.2)	33.8	22.8	14.6 (21.9)	14.5	24.1
Measles	0.10	2.7	7.8	0.17	0.68	0.08	2.5
Poliomyelitis		3.6	10.9	5.3	0	1.4	r
Dengue Fever		3.4	3.5			0.77	—
Encephalitis		41.5	1.6※	11.6		17.8	35.3
Tuberculosis		10.4	19.8	5.5	19.5	1.3	7.2
Malaria		1.5	0.59	0.07	1.2	0.22	r
その他感染症	3.25	3.9	—	—	—	—	14.2

1) 報告が少なく、資料により異なる。

2) ※1981年

3) タイ1983a:Health Profile 1985, Ministry of Public Health

1983b:Public Health Statistics 1983, Ministry of Public Health

4) カッコ内は新生児破傷風(再掲)

5) r: rare 報告数が非常に少ないので数値省略

資料:表X-3脚注

表 X-8 予防接種実施率¹⁾

	BCG	DPT	POV	Measles	TT
インドネシア(1984)	67	?	14	15	25
ネパール(1985)	117	58.2	9.9	123.5	40.1
ブラグアイ(1984)	80	66.5	67.8	61.9	70.9
フィリピン(1981)	71	62	53	?	35
スリランカ(1986)	70.5	69.5	70.7	20	41
タイ(1985)	79.6	62.0	62.7	29.1	47.9

POV : Polio oral vaccine

TT : Tetanus toxoid for pregnant women

DPT, : POV接種率は第3回接種終了者。

1) 各国で設定した Target に対する接種率従って該当者より少ないこともある。例えば、ネパールの出生率(42/1000)から出生数63万人と推定されるが、予防接種 Target(1983)はBCG, DPT 185,000 麻疹は92,500である。

2) バングラデシュの接種率は1983年の調査では非常に低いので省略した。

表 VI - 9 医療施設および医療従事者

	Bangladesh (1982)	Indonesia (1984)	Malaysia (1984)	Nepal (1985)	Paraguay (1984)	Philippines (1984)	Sri Lanka (1983)	Thailand (1977)	Thailand (1983)
医療施設 (1) (病床あり)	709	1,306	98	89	135	1,739	821		808
医療施設 (2) (HC)		4,753		HP814 HC 20					
病床	23,907	104,966	32,669	3,767	1,556	85,008	44,016	65,474	78,438
人口 / 病床	3,959	1,522	622	4,413	2,070	625	351	671	631
病床 / 10,000人	25	65	161	227	376	160	285		158
医師	11,513	17,760	4,474	710	2,000	49,602	18,444	5,789	7,902
人口 / 医師	8,221	9,098	3,220	23,416	1,600	1,072	8,375	7,586	6,259
人口 / 歯科医師		60,653	18,548	-	14,500	2,619	50,471		39,662
人口 / 看護婦	12,732	6,255	774	22,406	15,400	362	461	2,883	1,870
人口 / 保健婦		3,715	585	12,333		253	195		5,435*

※：助産婦

資料：各国感染症基礎調査報告書，SEAMIC Health Statistics (1984, 1985)，Philippine Statistical Year Book 1986

表 XI - 10 給水と屎尿処理の現状¹⁾

	Pipe Water	Toilet Facilities 4)	
		Flush Water	Pit or Moulded Bucket
Bangladesh	27.2% of Target	About 4 %	
Indonesia	7.3 (Urban 24.4)	11.0 (Urban 43.0)	25.3 (Rural 26.6)
Nepal	Urban 7.0 Rural 2.4	Urban Rural	7.3 < 5
Paraguay	15.3	3)	
Philippines	5.29	Urban 7.2 Rural 4.7	Urban 1.3 Rural 2.8
Sri Lanka	1.7 (Well 5.2) ²⁾	4.8	6.2.0
Thailand	18.9	4.2	5.0.3

資料：SEAMIC Statistics 1985 バングラデシュ、パラグアイ感染症基礎調査報告書

注：1) 数字は世帯に対するパーセントを示す。

2) Protected Well

3) 都市部水洗便所，農村部 Pit

4) 屎尿最後処理は地下浸透方式または河川放流で井戸水や河川の汚染原因となっている。

表 XI - 11 結核發生狀況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
Japan										
Morb	98.4	88.8	80.8	73.2	68.0	62.6	58.0	56.2	53.4	52.3
Mort	9.5	8.5	7.8	7.2	5.8	5.5			4.5	4.1
Philippines										
Morb	314.1	338.4	238.0	260.5	233.6	←	←	←	←	←
Mort	69.2	71.7	70.7	62.4	60.6	←	←	←	←	←
							Mean 216.8	Mean 57.1		268.0
Sri Lanka										
Morb	54.2	49.7	42.9	44.8	42.5	42.1	41.9			
Mort	13.4	11.6	10.8	9.8	9.2					
Thailand										
Morb	90.7	82.2	89.2	76.4	68.8	65.7	63.4	59.0	57.3	50.5
Mort	15.8	15.4	16.0	16.9	14.9	14.2	11.9	12.0	11.2	10.3

Nepal: Estimated Prevalence : 1 Percent (1986) of population

Infective type: 0.25~0.5 Percent of population

表 XI - 12 癩 發 生 狀 況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
Indonesia	(1) 5.5	5.0	6.0	5.0	4.8	5.1	5.1		0.80	0.78
	(2) 1.02	1.04	1.04	← 1.04	→ 1.04					
Nepal	(1) 1.47	1.53	1.47	1.53	1.68	2.17	2.10	2.20	(1985/86) 2.30	19.68
	(2)*								2.30	2.16
Philippines	(1)					1.99	2.07	2.20	3.80	
	(1)**	2.1	2.0	1.3	1.8	2.3	1.5(4.9)		(4.9)	
	(2)						0.68			
Thailand	(1)									
	(2)	0.85	0.81	0.80	0.83	0.81	0.88	0.90	0.90	0.88

(1) Morbidity per 100,000 population (New registered case in the year)

(2) Prevalence of the patients per 1,000 population.

* Estimated from the cases of registered treatment.

Total number of the patients is estimated to be 100,000

(=6.7 per 1,000) in 1985/1986.

** Figures provided by Epidemiological Unit;

Figures in parentheses show those provided by anti-leprosy Campaign Office.

表 XI - 13 マラリア発生状況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985
Bangladesh		64	38	44	66	78	51				
	Morb										
Indonesia		241.1	379.2		270.8	276					
	Morb										
	Mort										
Nepal	185.5	146.6	162.4	192.3	172.6	165.1	199.2	199.8	192.0	326.3	453.5
Philippines	63.7	81.3	66.6	77.7	68.2	91.7	84.2	95.0	229.3	207.4	
	Morb										
	Mort	2.4	2.3	2.2	2.4	2.2	2.1	2.3	1.4		
Sri Lanka	2,896	2,150	1,872	4,872	330.2	327.3	317.1				
	Morb										
	Mort	0.04	0.01								
	Morb	740	720	790	710	890	1,060	910	520	630	
	Mort	14.4	11.5	10.9	10.2	8.2	8.6	7.8	5.9	4.4	

表Ⅺ-14 コレラ発生状況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985
Indonesia											
Morb	38.6	31.9	21.3	16.7	21.7	19.8	14.9				
Mort	2.9	2.1	1.5	0.9	1.0	0.7	0.4				
Philippines											
Morb	2.8	3.3	3.5	3.0	2.7	1.7	2.2	1.0	2.1		
Mort	0.7	1.1	0.9	0.8	0.9	0.6	0.5	0.3	0.09		
Sri Lanka											
Morb	10.8	4.4	0.1	0.2	0.1	1.2	5.6	1.8			
Mort	0.4	0.1	0.01	0	0.01	0	0.4	0.1			
Thailand											
Morb	3.2	0.01	0.88	8.8	0.33	9.2	0.08	1.33	3.03	1.28	1.75
Mort	0.2	0.0	0.03	0.3	0.01	0.2	0.0	0.04	0.08	0.04	0.03

表 XI - 15 急性下痢症發生狀況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985
Indonesia				943.7	1,206.9	1,215.0					
Morb											
Mort											
Philippines	476.2	524.7	464.5	462.6	466.2	← mean 448.1 →	448.1	→ 982.6			
Morb	27.8	35.5	40.1	34.5	35.9	← mean 39.0 →	39.0	→ 27.8			
Mort											
Sri Lanka	1,221	1,596	1,358	1,365	1,184	964.9	1,186				
Morb	19.8	27.5	23.4	16.8	8.9	10.5	13.1				
Mort											
Thailand	148.9	173.1	227.1	307.6	383.6	483.2	513.2	675.9	852.7	822.2	439.4
Morb		0.93	1.20	1.48	1.17	0.89	0.65	0.59	0.56	0.84	0.37
Mort											

表 XI - 16 赤痢 發生 狀況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	
Philippines	Morb	47.5	50.5	45.9	60.7	60.7	56.0	70.4				
	Mort	1.4	2.1	2.6	2.7	3.0	3.1	2.7				
Sri Lanka	Morb	15.9	106.0	125.7	132.2	73.5	52.4	42.6	68.4			
	Mort	0.2	2.9	3.8	2.1	0.4	0.9	0.7	1.0			
Thailand	Morb	13.3	18.7	28.5	40.1	71.7	64.5	91.8	110.5	131.1	113.3	121.3
	Mort	0.09	0.1	0.1	0.1	0.09	0.06	0.04	0.05	0.04	0.08	0.09

表 XI - 17 腸熱發生狀況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983
Indonesia									
Morb		4.2	5.9	14.2	18.7	10.9	6.7		
Mort					0.8	0.4	0.2		
Philippines									
Morb	7.3	7.9	9.6	7.8	7.6	8.9	11.0	11.3	27.3
Mort	1.4	1.6	1.7	1.7	1.4	1.4	1.2	1.4	1.1
Sri Lanka									
Morb	85.9	79.2	60.8	66.7	51.1	50.5	47.3	41.3	
Mort	1.1	1.0	0.8	0.6	0.6		0.3	0.2	
Thailand									
Morb	9.4	14.7	27.1	19.4	22.0	22.0	23.9		
Mort	0.08	0.1	0.2	0.1	0.1	0.06	0.06		

表 XI - 18 肝炎發生狀況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983
Indonesia	Morb		0.9	3.1	5.7	4.5	4.4		
	Mort		0.02	0.2	0.3	0.2	0.1		
Philippines	Morb	10.4	15.6	16.4	15.8	19.0	20.7	17.9	19.1
	Mort	1.5	1.8	1.7	1.8	1.6	1.4	1.5	1.4
Sri Lanka	Morb	109.8	132.1	107.8	71.5	43.3	31.3	35.3	
	Mort	1.4	1.9	0.4	0.2	0.3		0.4	
Thailand	Morb	14.1	15.9	22.5	21.0	27.4	26.9	19.9	
	Mort	0.2	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	

表 XI - 19 破傷風發生狀況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	
Indonesia ¹⁾					5.5	3.5	2.2				
Morb					1.5	0.88	0.61			2.7	
Mort					Neonatal Tetanus (51.5) (53.3) (51.2)						0.63
Philippines											
Morb	10.8	10.8	12.3	9.3	6.2	4.7	4.9	5.6	6.4		
Mort	10.0	9.4	8.4	7.6	2.6	1.9	2.0	2.0	2.2		
Sri Lanka ²⁾											
(a) Morb	222	169	217	217	108	83	44.4				
(b) Morb	8.8	10.0	8.0	8.2	7.4	5.8	4.9	3.8			
Mort	1.9	2.2	2.0	2.2	1.4	1.3	1.2	0.8			
Thailand											
Morb	3.7	4.2	4.6	4.9	4.4	3.9	3.9	3.9	3.4	2.8	
Mort			0.97	1.01	0.73	0.63	0.63	0.56	0.49	0.29	
Tet. neonat. Morb					1.66	1.43	1.33	1.40	1.14	0.93	
Mort					0.43	0.35	0.33	0.31	0.25	0.15	

- 1) Hospital statistics
 2) (a) Neonatal tetanus/1,000 live birth. () : CFR
 (b) Tetanus except neonatal tetanus, Morb/100,000.

表 XI - 20 ジフテリア発生状況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
Indonesia										
Morb	0.7	0.7	0.9	1.3	1.7	1.3	0.6			0.73
Mort					0.2	0.1	0.07			0.10
Philippines										
Morb	4.2	7.7	6.4	3.1	2.2	1.7	4.4	3.8	6.2	
Mort	1.4	1.5	1.2	1.0	1.2	1.05	1.1	1.0	0.54	
Sri Lanka										
Morb	2.3	1.1	1.0	1.5	0.7	0.3	0.2	0.15	0.16	
Mort	0.5	0.3	0.2	0.2	0.2			0.02		
Thailand										
Morb	4.7	5.5	5.3	4.0	4.4	4.1	1.7	2.3	2.1	2.0
Mort	0.3	0.4	0.3	0.2	0.4	0.3	0.1	0.2	0.2	0.07

表 XI - 21 百日咳發生狀況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
Philippines	Morb	66.4	62.7	47.6	33.5	45.6	39.9	33.0	29.6	41.3
	Mort	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.1	0.2	0.1	0.6
Sri Lanka	Morb	9.7	8.0	7.6	4.9	5.5	3.7	3.4	1.8	1.6
	Mort	0.1	0.2	0.05	0.03	0.06			0.01	
Thailand	Morb	7.9	4.7	7.3	5.8	11.2	10.4	6.2	7.1	9.8
	Mort	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.01

表 XI - 22 急性灰白髓炎發生狀況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
Philippines										
Morb	1.9	1.8	3.2	1.8	2.3	0.61	0.91	0.74	1.54	
Mort	0.4	0.4	0.8	0.4	0.8	0.25	0.21	0.20	0.17	
Sri Lanka										
Morb	1.4	1.8	0.9	1.0	1.0	1.8	1.7	0.6		
Mort										
Thailand										
Morb	1.1	1.9	2.1	1.4	2.4	0.7	0.5	0.6	0.3	0.2
Mort			0.04	0.03	0.10	0.02	0.01	0.00	0.00	0.00

表 XI - 23 狂犬病發生狀況

	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
Indonesia Morb		0.05	0.04	0.06	0.03	0.05				
Philippines Morb	0.3	0.6	0.6	0.6	0.6	0.63	0.60			
Sri Lanka Morb			2.24	1.71	1.83	1.04	0.90	0.88		
Thailand Morb					0.65	0.78	0.70	0.61	0.58	0.45

図Ⅻ-1 ジフテリア罹患率の年次別推移 (1951 ~ 1983)
HOSPITAL DISCHARGE RECORDS SRI LANKA,

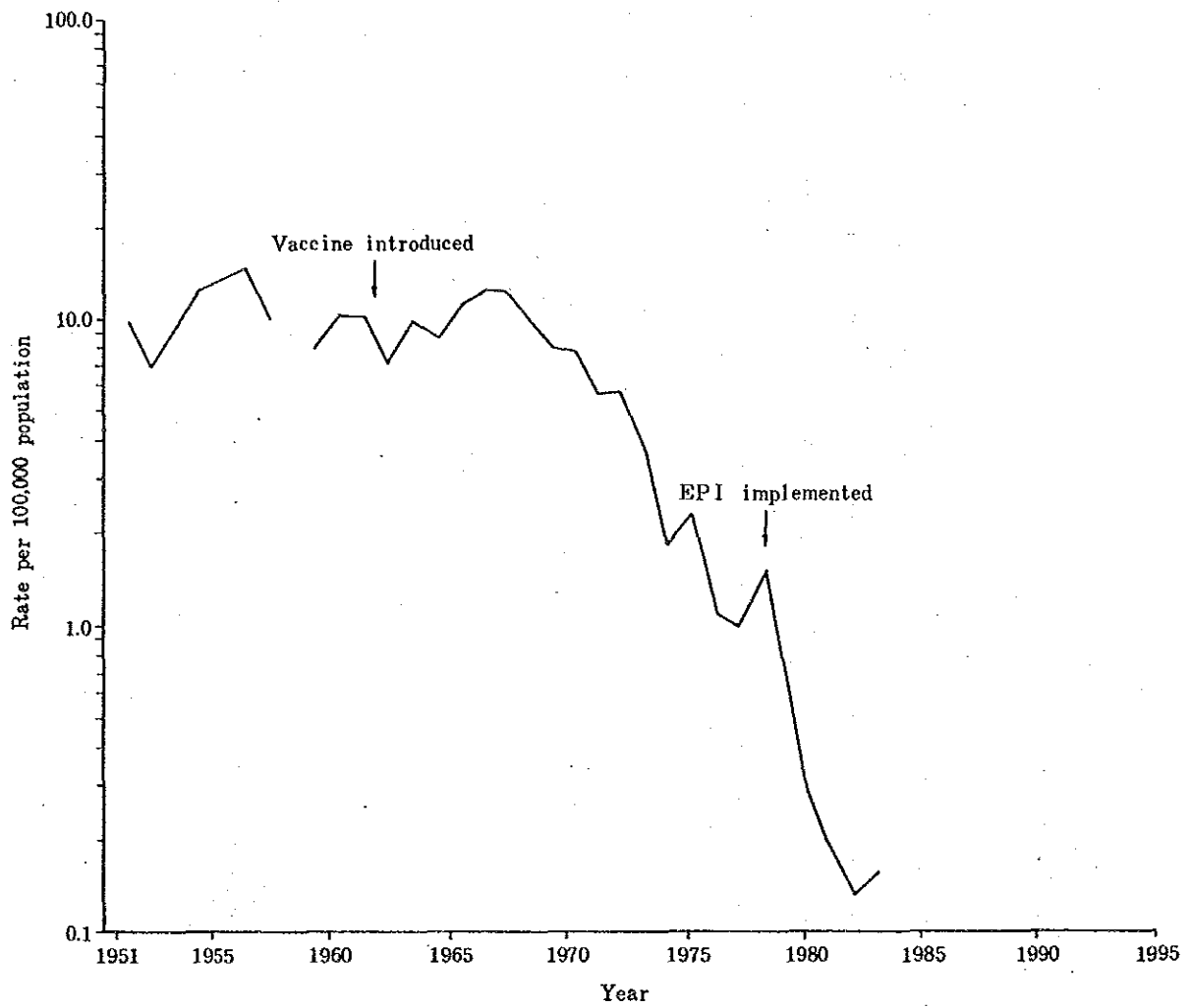


図 XI - 2 百日咳罹患率の年次別推移 (1951 ~ 1983)

HOSPITAL DISCHARGE RECORDS SRI LANKA

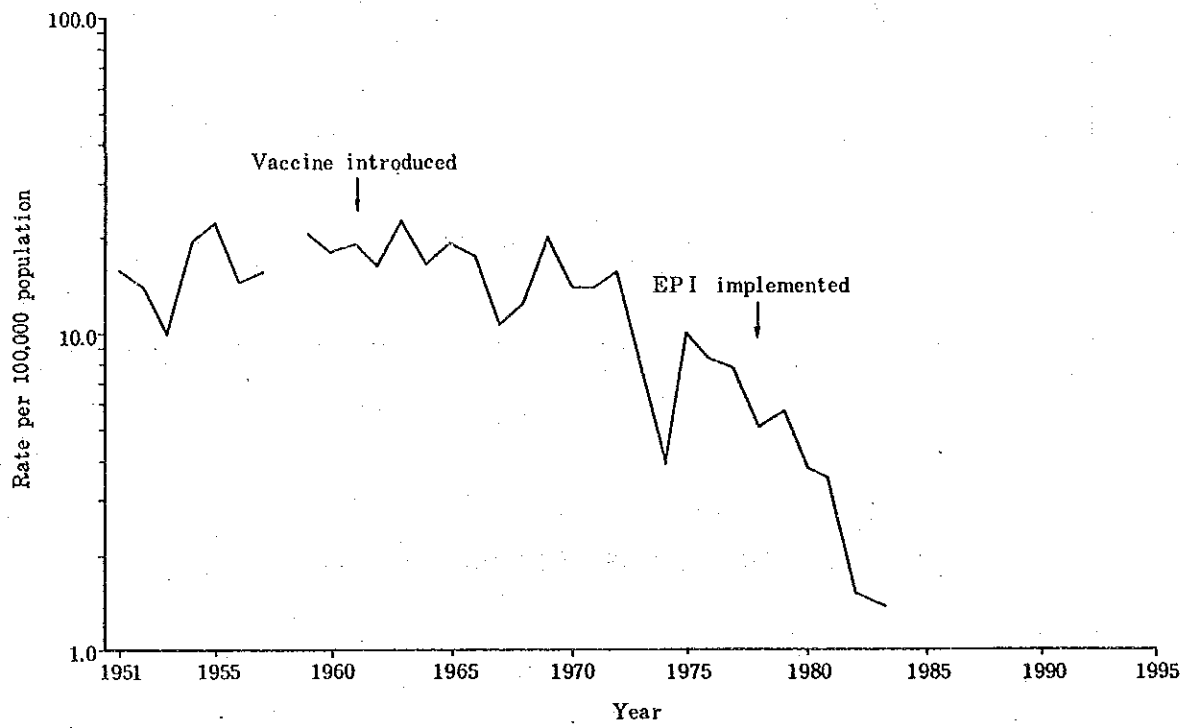


図 XI - 3 破傷風罹患率の年次別推移 (1951 ~ 1983)

HOSPITAL DISCHARGE RECORDS SRI LANKA

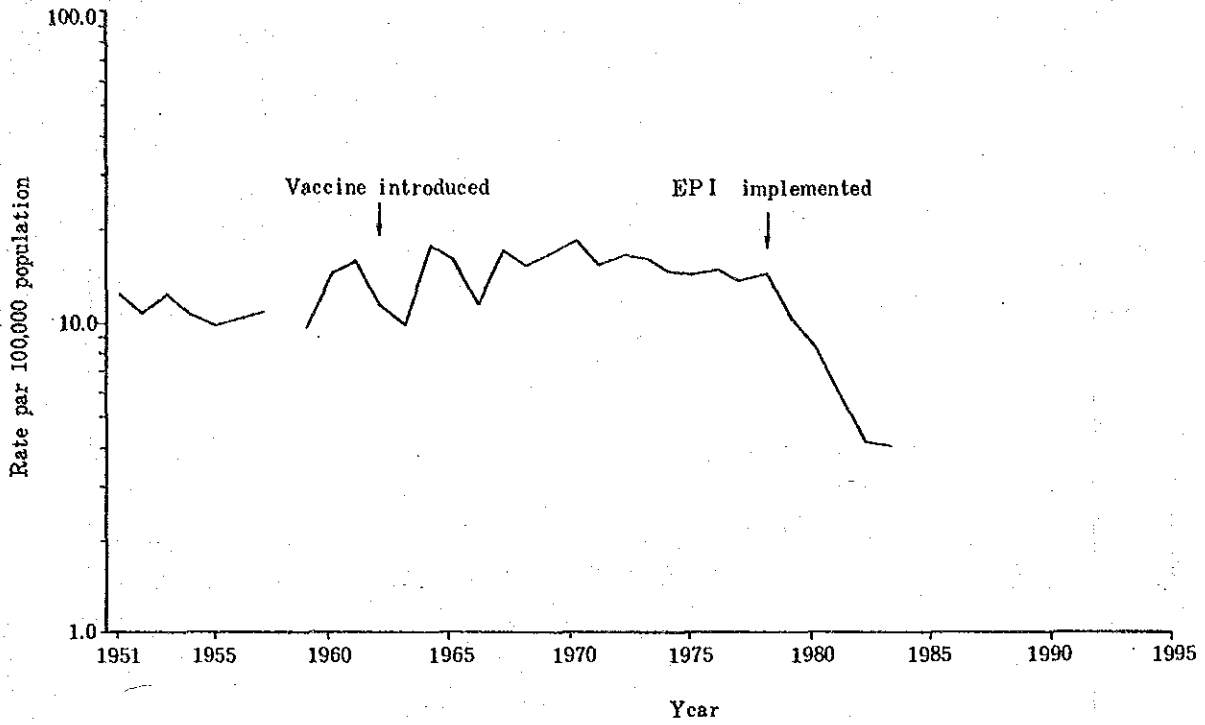
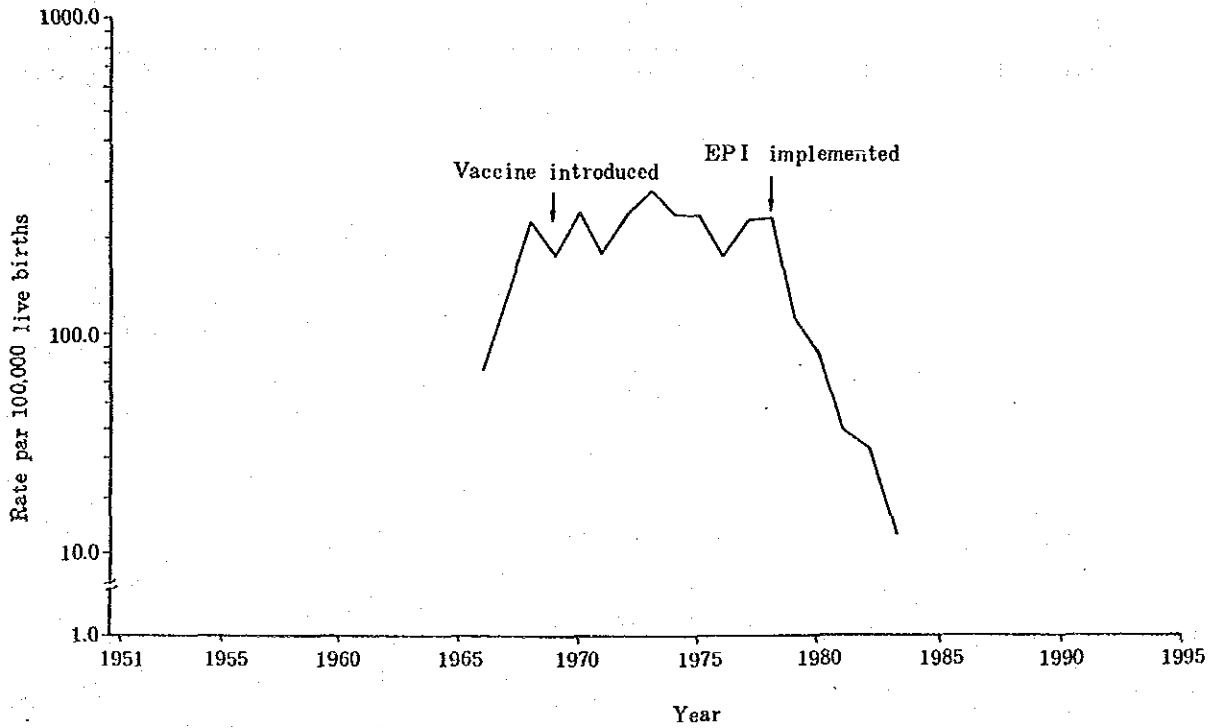


図 XI - 4 新生児破傷風罹患率の年次別推移 (1965 ~ 1983)

HOSPITAL DISCHARGE RECORDS SRI LANKA



付 収集資料リスト

1. EPI Activities in Nepal
2. NMRC/NEWSLETTER Vo 13.No 2
3. Epidemiological Bulletin
4. National Health Services Research Inventories Nepal
5. Epidemiological Surveillance Report on Japanese Encephalitis
6. Proceeding of The Fourth National Training Workshop in Health Services Research Methodology Dec.1985
7. Souvenir of Tribhuvan University Teaching Hospital 1986
8. Epidemiological Bulletin (Quarterly) Vol.6, No1-4 1985
9. Nata Souvenir
10. NEPAS Journal Vol.3 No 2
11. NEPAS Journal Vol.3 No 1
12. NEPAS Journal Vol.3 No 2
13. Proceeding of The First National Seminar on Foodsafety in Nepal held in Kathmandu Sep.1985
14. Proceeding of The First National on Smoking Nepal Medical Research & CARDIO-Respiratory Diseases Sep.1983
15. NMRC/NEWSLETTER Vo 2. 1 No 1
16. Journal of the Nepal Medical Association Vol. 24, 1986
17. Immunization in Children/A case study from Nepal
18. Project Paper
19. Journal of the Nepal Medical Association Vol.23, No 3, 1985
20. Central Health Science Library For The Institute of Medicine
21. Health Information Bulletin Vol.2 No 2 1984
22. Basic Information/Indicators to Support
23. W.H.O. Evaluating the Strategies for Health for all
24. Mahankal Family Health Survey/Report of A Preliminary Study 1982
25. The Sixth Plan
26. The Seventh Plan
27. Nepal Recent Developments and Selected Issues in Trade Promotion
28. Directory of Non Governmental Organisation
29. Statistical Pocket Book Nepal 1986
30. Annual Report (1984/1985)
31. Annual Report (1985/1986)
32. Health Science/Journals Index/A current Health Literature Awareness service
33. Profile of Institute of Medicine

JICA